

＝ 本年度の努力点研究について ＝

【研究テーマ】

どの子ども伸びる大高北小学習モデル

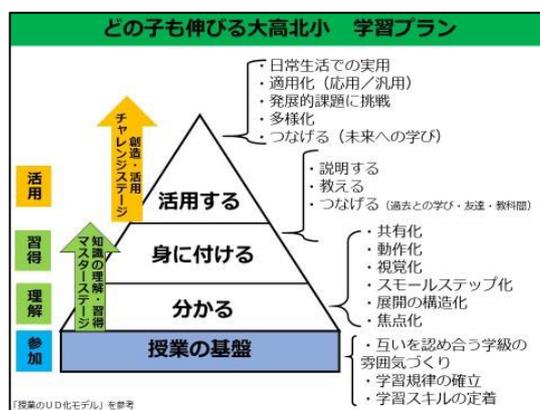
～「分かる」「身に付ける」「活用する」授業づくり～

授業に対して様々な困難さ（バリア）を感じている児童は、少なくありません。その状況の中で、各地で授業のユニバーサルデザイン（以下、授業のUDと略記）の研究が広がっています。

日本授業UD学会は、授業の4つの階層（「参加」「理解」「習得」「活用」）と授業でのバリアを除く工夫などを示した「授業のUD化モデル」を提案しています。「参加」は児童が活動すること、「理解」は児童が学習内容を分かること、「習得」は学習内容を身に付けること、「活用」は学習内容を使うことです。

本校の多くの児童は、「分かって楽しい」「できて嬉しい」といった学習の成果を感じることができています。しかし、授業内で学習内容を理解することができない児童や、理解したことを習得したり、活用したりできない児童がいます。この原因は、一人一人の学び方は違うことを踏まえた指導が不足していたからだと考えます。言い換えると、授業のUD化を進めることができていないからです。

そこで、引き続き「なかまなビジョン」を踏まえた授業を進めると共に、授業のUD化を行うことによって、どの子ども学力が伸びるようにしていこうと考えました。具体的には、右図の「大高北小 学習モデル」のように、授業の基盤を築いた上に、「マスターステージ」と「チャレンジステージ」を意識した工夫をしていき、「すべての児童にとって、学習内容が分かる授業」と「学習内容が分かる児童が、学習内容を身に付けたり、使ったりできる授業」を目指していきます。



<各学級で力を入れて実践すること>

① どの児童も「参加」する授業の基盤づくり

- 互いを認め合う学級の雰囲気をつくります。
- 学習規律を確立します。
- 学習スキルを定着させます。
- 刺激量を調整します。（例）黒板周りの掲示物を少なくします。
- 時間や場を構造化します。（例）授業の流れを提示します。
- 「授業における大切な4つの行動」を定着させます。

② どの子ども「分かる」ための手立ての工夫

- 学習の重点が分かるように焦点化します。
- 言葉での説明を視覚化します。
- 一人一人の学びを広げたり、揃えたりする、共有化します。